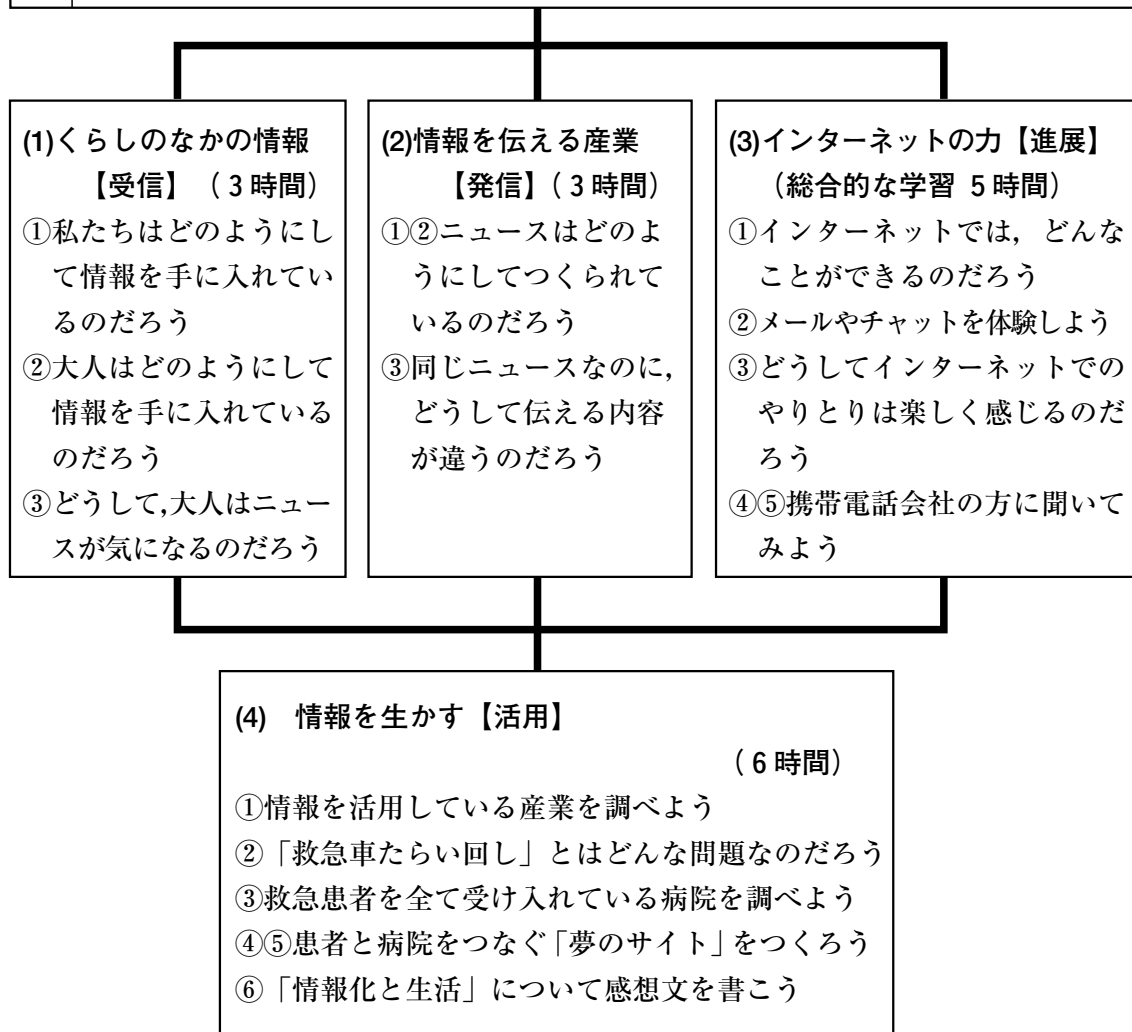


1.単元の目標と単元構成

目 標	・放送や新聞などの情報産業や、情報化した社会の様子と国民生活のかかわりについて、意欲的に調べることができるようにする。 ・情報化の進展が、産業と国民生活にどのような影響を与えているかを考えたり、情報の有効な活用について考えたりすることができるようにする。 ・放送や新聞などの情報産業について調査したり、情報化の進展について資料や図表などの資料を活用したりして調べ、それらと国民生活との関連を整理してまとめることができるようにする。 ・情報通信の発達によって時間的制約や空間的制約が緩和され、利便性が高まったことは、社会にどのような影響を与えているかを、よさと問題点の両面から理解させる。
--------	--



2. 指導計画作成上の工夫と留意点

(1) 立場の転換を図る

情報のやりとりでは、常に相手を意識することが求められる。情報を発信する側は、受け手のことを思い、受信する側は、発信者の意図をふまえておく必要があることに気づかせたい。調べる対象は発信する側、受信する側のどちらなのかを明確にした上で、同じ情報であっても、立場によってその影響や価値に違いがあることを気づかせるよう単元の構成を工夫した。

そこで、小単位(1)「くらしのなかの情報」では情報を受信する側を、小単位(2)「情報を伝える産業」では情報を発信する側を、小単位(4)「情報を生かす」では情報の受信から活用（発信を含む）するまでの立場を取り扱った。

さらに、子どもがよく手に入れている情報、大人がよく手に入れている情報、情報を発信する産業、情報を活用する産業と、取り扱う社会的事象を子どもの生活に近いところから次第に広げていくことによって、子どもの意識の流れに沿って単元を展開できるよう工夫した。

(2) 目に見えない情報の取り扱い

情報は目に見えないので抽象的な理解になりがちである。可能な限り日常生活の中から具体的な場面を取り出し、その意味や役割について考えさせたい。

よく導入で取り上げられる気象情報でさえ、子どもから遠く、意識されていない場合も少なくない。そこで、子どもと大人では求める情報に違いがあることを取り上げた。具体的には新聞のテレビ番組欄をもとによく見る番組について話し合う。調べてみると、大人はニュース番組をよく見ていることがわかるのだが、それはなぜか、を予想し、聞き取り調査する。すると、ニュースや気象情報を生活や仕事に役立てている具体的な例が浮かび上がってくる。

さらに、総合的な学習の時間を活用して、体験的な活動や調査・見学活動を効果的に取り入れたい。メディアルームでのインターネット検索体験、メール体験、チャット体験等を通して、様々な気づきを得ることができる。子どもに、インターネットによって可能になったことを尋ねると、情報検

索や買い物、動画を見ることができるといった答えが返ってくる。そこで「それらはインターネットでなくてもできるのでは」と切り返す。すると、「すぐに」「手軽に」「たくさん」「世界中」「一度に」など、インターネットの特性を際立たせる言葉を引き出すことができる。そして、それらは「時間を省く」「空間を省く」「手間を省く」力としてまとめることができる。情報化が進んだ世界に生まれた子どもたちだけに、情報化される前の状態と現在とを比べることによって、その進展が理解できる。例えば、現在の生活の中で携帯電話を使用する場面を挙げ、普及前と比べることで、情報化の進展がより鮮明に理解できる。

なお、体験活動からは、人と簡単につながる楽しさがわかる一方で、「速すぎてついていけない」「たくさんの情報の中にはウソも混じっている。ふりまわされそう」「顔が見えないから不安。どんな人とつながってしまうの」など、情報化の影の部分にも気づくことができる。ここでは、情報モラル、ネチケットにもふれておきたい。

さらに、携帯電話会社の見学や情報に関する安全教室への参加などを活用して、常に情報産業の最先端事情にふれておきたい。

(3) 医療と情報

小単位(4)では、情報ネットワークを有効に活用して公共サービスの向上に努めている事例として、救急医療の現場を取り上げる。「満床や医師不足を理由に病院が救急患者を断るのは仕方ないか」を小単位全体の問いとして設定し、新たな認識を得るたびに、繰り返し判断させていく。また、救急患者や救急救命士、病院、と立場を転換させながら「知りたい情報」「知らせたい情報」を整理し情報化の光と影を見つめさせたい。

ここで、情報ネットワークの整備が医師不足等の問題を全て解決できるものではないことに留意しておきたい。情報が流れやすくなると協力体制は築きやすくなるが、依然医師の負担は重く根本的な解決には至らない。つまり、情報ネットワークをもとにした人の営み、顔が見える関係が生命を救っていることに留意しておきたい。

3. 展開例

(4) 情報を生かす (6時間)

小単元の目標 救急患者を全て受け入れている高知県H病院の取り組みを調べ、患者や病院が知りたい情報、知らせたい情報を挙げ、「夢のサイト」として、情報の流れを図にまとめさせる。そして、この図を手がかりに、受け入れのための協力体制が確立している理由を考え、情報ネットワークの構築と関係づけて説明することができるようにする。さらに、情報化の進展が医師の負担軽減につながるかどうかを「夢のサイト」をもとに吟味し、情報化の進展と国民生活への影響について、よさと問題点の両面から整理させる。

過程	ねらい	主な学習活動と内容	□留意点 ●学習資料 < >評価
つかむ	◆情報が生活や生命を支えている事例を想起する。(1) ◆救急車に乗っても受け入れてくれる病院がなければ、助からない場合があることを知る。(1)	①避難訓練を話題に挙げ、緊急時に静かに行動しなければならない理由を考え、情報の伝達が命や生活に関わる事例について話し合う。 ②「救急車たらい回し」の新聞記事を読み、救急患者の病院での受け入れが困難になっているという社会問題について話し合う。	□地震や火事など緊急時に、情報が伝わるか否かで、どのように結果が変わるのかを具体的に考えさせるため、「危険箇所」「地震情報」などの具体的な情報の内容を示し、これらの情報が伝わらなかった場合について考えさせる。 □阪神・淡路大震災の際、避難した住民がマンションの扉に転居先や安否を知人に知らせる貼り紙を残した事例を紹介し、緊急時はどんな情報が重要かを考えさせる。 ●避難訓練時の写真 ●阪神・淡路大震災時の写真 □「たらい回し」とは、実際は救急患者の受け入れが困難であるということを補説する。 □「救急患者の受け入れが困難なのは、仕方がない」に対して「そう思う」「どちらかというと思う」「どちらかというと思わない」「そう思わない」の立場のいずれかにネーム磁石を貼らせる。 ●「救急車たらい回し」の記事〈緊急時には情報が重要であることから、医療と情報の関係について関心を高めている〉 【関・意・態】
		「ベッドがない」「対応する専門医がない」という理由で、病院が救急患者を断るのは仕方ないのだろうか。	

◆高知県H病院の取り組みを調べ、救急患者を受け入れられる理由をまとめる。

(1)

◆情報ネットワークがつながることで、協力しやすい体制ができることに気づく。

(2)

◆学習を振り返りながら情報の進展による生活への影響をまとめる。

(1)

③救急患者を全て受け入れている高知県H病院の取り組みを予想し、インタビュービデオ等で確かめる。

- ・地域の病院との連携
- ・救急救命士との連携
- ・看護師との連携
- ・施設、設備の充実

④⑤地域の病院が協力できるような様々な立場から「知りたい情報」「知らせたい情報」を整理し、「夢のサイト」(情報の流れ図)として表現し、クラス内で互いに見せ合う。

- ・患者の立場から
- ・救急救命士の立場から
- ・病院の立場から

⑥実際にある医療ネットワークと比較し、情報の進展が生活へどのように影響するのかを話し合い、「情報化と生活」について感想を書く。

□355床、医師52人のH病院が毎月150名以上の入院患者を受け入れている事実から「なぜ、受け入れられるのか」という学習問題をたてる。

□取り組みを調べた後、救急患者を全て受け入れている病院があるのだから、病院は救急患者を受け入れる努力をすべきだ、という意見に傾くと考えられる。そこで、同病院では平成21年度に、8名の医師が辞めた事実を知らせ、受け入れ続けるには、医師の負担軽減が必要であることに気づかせる。

●宿毛市の地図と地域の病院の分布図

●グループで作成する情報の流れ図
(「夢のサイト」)

●月別のH病院の入院者数の推移グラフ

●H病院のインタビュービデオ

□119番通報から病院到着までの流れ
(①119番通報に約1分、②救急車出動から到着まで約7分、③現場の状況確認に約3分、④病院を探すのに1つの病院につき約3分、⑤病院まで運ぶのに約5分かかる)を視覚化し、④病院を探す時間を短縮すればよいことに気づかせる。

□知りたい情報や知らせたい情報を付箋紙に書き、グループで作った情報の流れ図に貼り付け、「夢のサイト」を作らせる。

□「夢のサイト」を互いに批評する中で、個人情報など知らせたくない情報もあることに気づかせる。

〈H病院の取り組みを調べ、協力しやすい体制のための情報ネットワークのしくみを具体的に考え、表現している〉【思・判・表】

□実際にある医療ネットワークを紹介し、「夢のサイト」と比較させる。実際には関係者のみが閲覧できるサイトもあることを紹介し、個人情報保護の配慮について補説する。

〈情報の発信、受信、活用について、よさと問題点を考え、整理して表現している〉【思・判・表】